

# 富士市のごみを考える会通信2015年秋号



発行:NPO 法人富士市のごみを考える会 2015年 秋号  
理事長：富士市大淵27-6事務局宅 小川 浩  
Tel:fax:35-2439 mail: fujigomizer@me.com  
HP: <http://fujigomizer.sakura.ne.jp>



- 8月1日青葉台地区夏祭りに、リユース食器を貸し出しました。ごみの出ない祭りに、吉原第2中學生も協力してくれました。
- これからは、すべての貸し出しに、洗浄熱湯消毒までして返していただくことになりました。

- 8月3日富士市のごみを考える会理事会で懇親会を行いました。理事長の富士常葉大学の小川浩先生はじめ、顧問・理事の多くが顔を揃えた、とても有意義な懇親会となりました。

顧問の松田美夜子先生がロンドンオリンピックでのごみゼロ学び、東京オリンピック・パラリンピックでもごみゼロを目指していこう！とプレゼンテーションをしてくださいました。



- 9月11日青葉台小学校4年生の環境教育授業の第1回目が行われました。



理事長の小川教授が最初の導入部分をお話してから、「富士山とごみとわたし」の紙芝居、市廃棄物対策課若手職員による「ダックス食ん太くんの使い方」、当会会員による「EMぼかしによる生ごみたい肥化」のお話をしました。

9月18日朝7時半から、畑にみんなで生ごみを入れ、午後1時半から、色々なリサイクル（ペットボトル、缶、ビン、プラスチック容器包装、古着）の説明をして、質疑応答しました。

# 生ごみ減量

## 青葉台小 NPO が環境授業

青葉台小の4年生は11日、ごみの減量から環境問題について考える授業を行った。NPO法人富士市のごみを考える会会長、小川浩常葉大社会環境学部教授が講師として訪れ、児童88人に、生ごみの資源化と環境配慮の3Rについて体験を盛り込みながら解説した。

生ごみの資源化については、市オリジナルの段ボールコンポストの「だっくす食ん太くん」

E.OとE.Mほかしを使った生ごみの堆肥化に挑戦した。食ん太くんは、木材や竹チップなどに酵素を混ぜた母材と生ごみをよく混ぜることで生ごみが消滅する仕組みの生ごみの自家処理装置。市廃棄物対策課の職員も訪れ、「微生物はカロリーが高い肉や油っこいものが大好き。野菜が多く出たときは、食用廃油を入れ、母材の湿度にも注意してね」と呼び掛けた。

E.Mほかしの使い方では、有用微生物群であるE.M菌の働きで生ごみが堆肥化される仕組みを紹介。児童たちは、効果的に堆肥化されるようサンドイッチのように生ごみとほかしの層を作り、1〜2週間に変化するという



だっくす食ん太くんの使い方を学ぶ児童たち

呼び掛けた。3Rはリデュース（減らす）、リユース（繰り返し使う）、リサイクル（再資源化する）の頭文字を取った「最環境配慮の「魔法の言葉」として、全員で復唱する時間も設けた。曾我侑吾さんは「温度によって母材の働きが変わる食ん太くんは人間みたい。楽しかったよ」と驚いた表情。秋山紗穂さんは「生ごみがたくさん出ると臭くて困っていた。E.M

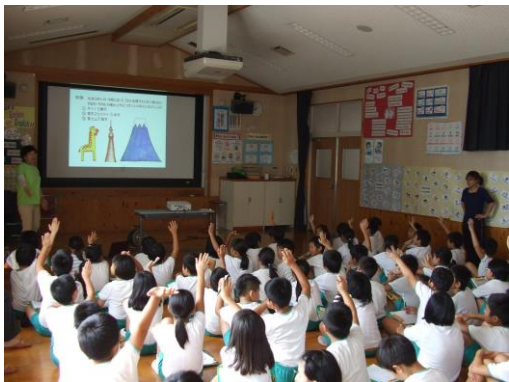
様子をつくりと眺めていた。NPOメンバーたちは「生ごみは可燃ごみの40%を占めている。生ごみを減らせれば、環境にも良いし、ごみ出しの負担も減る。長続きできるように楽しく取り組んでほしい」と

9月11日の青葉台小学校の環境学習が、9月12日付の富士ニュースに掲載されました。富士市環境アドバイザー授業として行いました。

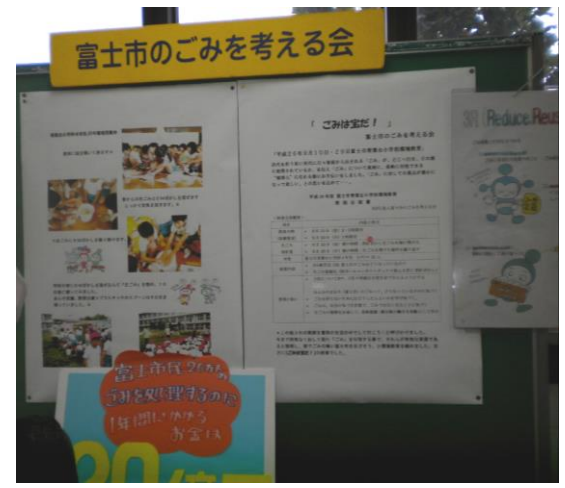
- 9月13日、ボーイスカウト富士4団ビーバー隊に、富士市のごみを考える会環境アドバイザー授業として、「富士山とごみとわたし」の紙芝居と、ごみ減量クイズをしました。
- 皆とても元気にごみのお勉強とごみ拾いことができましたね。子どもたちは、とても楽しそうにごみの勉強をしました。



- 9月18日第2回青葉台小学校の授業で、ごみ減量クイズ！



- 9月27日第40回富士市生活展（消費者運動連絡会）当会パネル展示「ごみは宝だ」平成26年度青葉台小学校環境授業  
参加者: 縣、熊谷、中島、小野勝利
- 1. 9/25(金) 13:00~15:00 展示飾り付け
- 2. 9/27(日) 8:45~14:30 生活展本番・片付け  
・当会ブースでのパネルの説明、当会のPR  
・クイズ採点、アンケート回収作業



- 9月25日富士川第1中学校1年2年生対象に浄化槽による「水環境を守ろう！」という授業を、常葉大学小川浩教授が、浄化槽協会主催で行われました。富士市のごみを考える会のメンバーも参加しました。



## 今後の予定

- 10月5日(月)青葉台小学校第3回目授業  
畑の堀りおこし、EM ぼかしがどうなっているか確かめよう!
- 10月9日(金)家庭系一般廃棄物 組成分析 (場所:環境クリーンセンター)  
富士常葉大学杉山涼子ゼミに協力、富士市廃棄物対策課、環境クリーンセンター  
参加者:石川、岸本、佐野、小野房、石倉、平田、熊谷、縣、時田、終了後、常葉で  
懇親会。ほかにも、お手伝いできる方、080-5102-2439(小野)まで連絡ください。
- 10月18日(日)市民福祉祭りに、今回は当会としては参加しませんが、有志で行う  
リユース食器に当会有志がお手伝いします。
- 10月23日(金) 環境学習啓発施設の視察  
朝7時半富士市役所出発、  
「環境学習啓発施設豊田市エコット、とよたエコフルタウン」の視察見学をします。

正会員 4000 円、一般・応援会員 6000 円です。  
会から少し補助を出します。

別紙の申込書に書き込んで、FAX か、会員にお届けください。

多くの皆様のご参加を楽しみにしております。

- 11月8日(日)青葉台地区文化祭 青葉台小学校体育館  
展示コーナー、ステージ、リユース食器貸し出しで参加します。見に来てね!
- 11月20日午後1時半より、小川浩理事長が、長泉町で浄化槽の講演会  
を行います。佐野勝美理事と漫画家の赤星たみ子さんを交えて、パネルディスカッ  
ションもあります。佐野理事は当会理事としての参加です。  
参加希望者は、080-5102-2439(小野)まで連絡ください。
- 11月21日 愛知県江南市で浄化槽フォーラムがあります。  
小川教授が基調講演、小野ゆみこは理事として参加します。
- 富士ニュース9月20日号に当会の紹介が掲載されました。  
地域協力員の方々と一緒に写真を撮りました。  
当会では、会員を募集しています。  
一緒に活動していただける方をご紹介ください。

# 市民協働の担い手 富士市のNPO法人⑩



富士市のごみを考える会と協働する地域住民たち

富士市のごみを考える会(小川浩理事長)は、環境配慮の3R(リデュース・リユース・リサイクル)減らす、出張する環境教育は、生ごみの再資源化方法

の紹介や、「自分の気付き次第でごみはごみでなくなる」といった日常生活での3Rの実践呼び掛けなどを行う。紹介する再資源化は、市のオリジナル段ボールコンポスト「だつくす食ん太くんNEO」やEM(有用微生物群)ほかしの活用による堆肥化など。子供たちが持ち寄った生ごみを変化していく様子を示しながら、効果を伝える。

そのほか、市が容器プラスチックやペットボトル、古着の分別回収を始める際は、導入の意義を訴える提言に努めた。制度開始後も市職員と共に地域での説明会を約1000カ所で開催。「できることから始めよう」と官民一体の必要性を伝えた。発足のきっかけは新環境クリーンセンターの建設計画。計画が持ち上がった際、広見と青葉台両地区の住民たちがごみの現状について知る勉強会を開いた。

富士市のごみを考える会の紹介や、「自分の気付き次第でごみはごみでなくなる」といった日常生活での3Rの実践呼び掛けなどを行う。紹介する再資源化は、市のオリジナル段ボールコンポスト「だつくす食ん太くんNEO」やEM(有用微生物群)ほかしの活用による堆肥化など。子供たちが持ち寄った生ごみを変化していく様子を示しながら、効果を伝える。「子供たちの意識が変われば未来が変わる。子供たちから再資源化の大切さを説かれれば、親も変わる」とはメンバーたちの思い。

## 富士市のごみを考える会

状況。「建設等々より、まずはごみを減らす努力が必要だ」という参加者の声から誕生したのが平成13年。メンバーは2地区だけでなく、全市に広がっている。現在の会員は31人。小川理事長は「活動の核はごみ問題だが、環境全般でも市民目線でどう解決していくべきか考える会でありたい」と展望を伝える。



児童に生ごみの再資源化を伝える教育活動